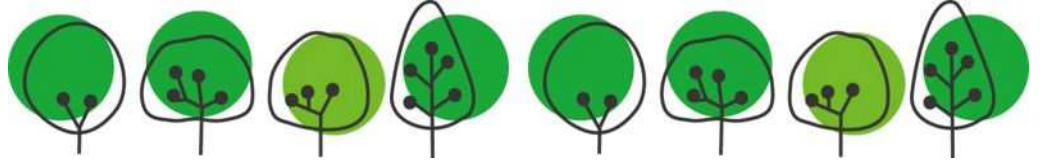




木地師のふるさと

vol.13



R6. 2 発行

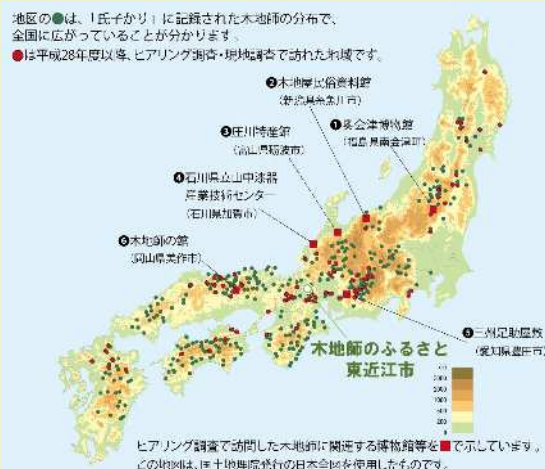
特集：木地師にまつわる調査報告

東近江市では木地師にまつわる調査を継続して行っています

東近江市では2016年度に「平成の氏子駈・氏子狩復活事業」としてアンケート調査や各地の資料館等へのヒアリングを実施して以降、継続して全国の木地師ゆかりの人や地域を訪問し、全国に広がる木地師の暮らしや生業について調査を進めています。

また、「木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクト」と銘打ち、市民ボランティアの協力を得ながら、2018年度から市の保有する約1,300点以上もの木地師に関連する資料の整理を進めています。

今号ではこれまでの調査の振り返りと、今年度行った調査についての報告を行います。



氏子かり訪問先の分布と今まで調査で訪れた場所

■これまでの調査

事業開始当初から、木地師ゆかりの人や地域の踏査を実施してきました。2018年度からは名古屋大学名誉教授の櫻井氏、名古屋商科大学非常勤講師の筒井氏に調査を依頼し、これまでに北は秋田県、南は大分県まで延べ90箇所以上の地域を訪ねました。

「木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクト」では龍谷大学名誉教授の須藤氏の監修のもと、能登川博物館に収蔵している木地師に関連する資料について、写真撮影・計測・図面作成を行い、台帳を作成してきました。

■木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクト

2023年度は、旧湖東歴史民俗資料館に収納されている資料の調査を実施しました。第1回調査では国登録有形文化財であり、小学校を活用した同資料館の見学を行い、暮らしの中で使われた道具を通して、湖東地区におけるかつての生活を市民ボランティアと共有することから始めました。

調査では、ハシの日などに使われていたお膳のセットやお重など家庭で日常的に使用されていた木器や道具等に触れることで、東近江市での生活と木の文化の関わりに着目した貴重な資料調査となりました。



旧湖東歴史民俗資料館見学の様子

各地の木地師調査 ～折口信夫と木地屋～

調査者：櫻井龍彦氏（木地師のふるさと発信事業委員会 委員／名古屋大学名誉教授）

■「折口信夫と木地屋」について

今年度の調査は、国文学者・民俗学者である折口信夫（1887-1953）の木地屋探訪の軌跡を追うこととしました。大正9（1920）年に初めて三信遠地域※を旅した折口は、松本から遠州方面にかけて様々な地を訪れ、木地屋など山で暮らす人々の生活を調査しています。そして昭和12（1937）年には岐阜県揖斐川町春日小宮神で木地師を訪ね、当時の暮らしにも触れています。

この報告では、折口も訪れた岐阜県恵那市岩村、上村（いまの上矢作町）、春日村を訪問し、そこで得られた情報を報告します。

※三信遠地域：東三河（愛知県豊橋市等）・南信州（長野県飯田市等）・遠州地域（静岡県浜松市等）の県境をまたいだ地域の呼称



浄光寺（遍照山浄土真宗大谷派）

■岩村浄光寺の「御取越」

恵那市の岩村、上矢作では、宝永4（1707）年～明治13（1880）年まで蛭谷と君ヶ畑からの氏子かりが行われていました。

安永年間（1772-81）頃、美濃・信濃・三河の一部の木地師たちは禅宗から浄土真宗に改宗し、恵那市岩村にある浄光寺を檀那寺としました。浄光寺は、毎年「御取越」と称してこの地域に散在する木地師を巡回し、布施を集め、法事をしていました。

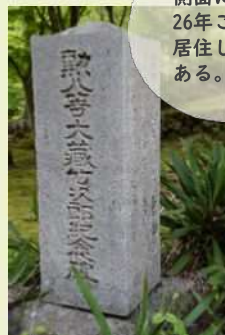
今回の調査では、大正から昭和にかけても木地師及びその子孫に対する御取越の巡回が行われ、縁が続いていたことが確認できました。

■上矢作町の木地屋

上矢作町に“海”という変わった名前の集落があります。大正14（1925）年に出版した折口の歌集『海やまのあいだ』に「夜」と題する連作があり、はしがきで“海”にある三軒の家、一人の翁に言及しています。三軒は小椋・大蔵・堀姓の木地師、翁は大蔵竹次郎のことを指します。

現在小椋家は取り壊され、堀家は残っているものの無住。大蔵家は企業の保養所になっており、敷地内に「勲八等大蔵竹次郎記念碑」が残っていました。

なお上矢作町の間野には今も藤原姓の木地師の子孫がおり、明治15（1882）年建立の記念碑が存在し、惟喬親王の臣下藤原定勝の系統と称しています。



側面に「明治26年この地に居住した」とある。

大蔵竹次郎記念碑

折口は「切り立った崖の狭間に出来ている村落で、そこに、獵師村のように家がごちゃごちゃ並んでおる」と描写している。それは今でも変わっていない。



春日村小宮神

■春日村小宮神の木地屋

折口は小宮神の木地屋から系図の鑑定を頼まれていましたが、昭和12（1937）年、51歳の時にやっと訪問が実現したと「木地屋のはなし」で述べています。この時に訪問した木地屋が当ても木地業を営んでいたのか、既に廃業しておりその子孫なのかは記載されていませんでした。

また、鑑定を頼まれた系図がどのようなものであったのかも不明ですが、火災のあと明治31（1898）年に復元した系譜によると、当地の藤原一族は藤原定勝を始祖とし、君ヶ畑から移住してきた集団で、現在48代目とあります。分家は4つあり、分家の1人がいまも木工旋盤で木地を挽いていることが今回の調査で確認できました。なお、藤原家の先祖の藤原石位左衛門は「さざれ石」の歌を詠んだ人物とされています。



下り藤 藤原家の墓

上り藤一族の墓は別にある。君ヶ畑との関係を主張するのは下り藤の藤原家である。

富山県朝日町蛭谷とバタバタ茶

調査者：筒井正氏（東近江市参与／名古屋商科大学非常勤講師）



朝日町蛭谷と東近江市蛭谷の位置関係

2016年秋、朝日町蛭谷の関係者が東近江市蛭谷町を訪ねて、木地師資料館を見学するなど、木地師文化発祥の地に思いを寄せられました。昨年10月、本市の小椋市長一行が朝日町蛭谷を訪問し、笹原町長をはじめ、蛭谷の人々から心温まる歓迎を受けました。木地師がいなくなって久しいようですが、住民の中には、近江国蛭谷の末裔であることを強く意識している人がいることが分かりました。



政所茶の茶畑（東近江市政所）

東近江市の小椋谷一帯は、15世紀初頭以来、政所茶の産地として知られています。民俗学者の柳田國男は『史料としての伝説』の中で、「近江の小椋に定着した木地師は、古くから茶を作った。この茶は遠国にまで売りに出された。茶もみ歌の一節『ここでもむ茶が秋田へくだる。秋田女郎衆にふらりよかよ』の『ふる』というのは茶筌で茶の煎じ汁の泡を立てることである」と述べています。この記載から、木地師はお椀とともに茶筌も作っていたのではないかと考えられます。

朝日町蛭谷では、今も地域の住民がお漬物などのお茶請けを持参して、世間話をしながらバタバタ茶を楽しんでいます。朝日町蛭谷と東近江市蛭谷は、木地師とお茶が取り持つ縁で結ばれているように思われました。

富山県朝日町蛭谷と東近江市蛭谷との関わり

富山県の東端に位置する朝日町に蛭谷という集落があります。伝承や記録によれば、16世紀中頃、飛騨国双六村（現在の岐阜県吉城郡上宝村）の木地師が越中国（現在の富山県）に移住し、各地で木地業に携わっていた。19世紀初頭、蛭谷やその南西に隣接する山崎村の棚山で木地の生産に従事していたとされ、彼等は近江国小椋谷の出身であると伝えられています。



2023年10月の朝日町蛭谷訪問の様子

蛭谷のバタバタ茶と政所茶

朝日町蛭谷には、バタバタ茶とよばれる振茶の習俗が伝えられています。茶葉を発酵させた黒茶を煎じて、二本の茶筌で泡立てて飲みます。泡立てるときにバタバタと音を立てるのでこの名が付いたそうです。振茶の習俗は、富山・愛知・愛媛・鳥取などでも見られました。愛知県三河山間部で木地師が住んでいた地域には、振茶の風習が大正初年まで見られました。



2本の茶筌で泡立てて飲むバタバタ茶



バタバタ茶伝承館での憩いのひととき

参考文献 中川 眸「富山県蛭谷における飲茶風習(バタバタ茶)について」調理科学 Vol.12 No.4 (1979)

「木地屋シンポジウム in いといがわ」にて報告・発信を行いました

■木地屋シンポジウム in いといがわ

2023年10月28日、29日に新潟県糸魚川市にて「木地屋シンポジウム in いといがわ」が開催され、東近江市は「木地師文化発祥の地」として開催協力を行いました。

1日目は、木地屋の集落があった糸魚川市大所^{おおところ}にある木地屋民俗資料館の見学、2日目は同市ビーチホールまがたまで、映画上映、朗読劇、基調報告・パネルディスカッションなどが実施されました。



小椋市長の基調報告の様子

■基調報告

基調報告では4人の識者が木地屋の資料や氏子かりについてそれぞれの研究成果や取組を報告しました。

東近江市からは小椋正清市長が「惟喬親王伝承と木地師文化～「氏子かり」にみる木地師のネットワーク～」と題し、氏子かりと小椋谷の関係、小椋谷を中心とした木地師のネットワークについて講演しました。

■パネルディスカッション

パネルディスカッションでは東近江市筒井参与、木地師のふるさと実行委員会須藤氏ら5人の識者が登壇し、「木地屋の移住と『氏子かり』」をテーマに活発に議論が行われました。

木地屋・木地師にとっての「氏子かり」の意味や木地師の暮らしぶり、里との関係性等、様々な視点で木地師文化が語られ、貴重な意見交換の場となりました。



パネルディスカッションの様子



展示の様子



会場の様子

○東近江市の展示

会場ロビーでは、「木地師のふるさと東近江」の歴史と取組、糸魚川市と東近江市のつながりを解説したパネルと東近江市在住の木地師の作品を展示しました。

多くの来場者が熱心に観覧しており、「木地師文化」への関心の高さが伺えました。

木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10 番 5 号

TEL (代表) 0748-24-1234 (直通) 0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

(Facebook では随時、お知らせ等を行っています!!)

市 HP



Facebook

